

ネイチャーセンター 準備室だより



写真：鈴木卓也

ラムサール 条約湿地と コクガン

毎年冬になると、遙か北方から南へ渡ってくる鳥たちがいます。志津川湾にも沢山の種類の水鳥が集まり冬を越します。コクガンもその一つで、毎年100〜200羽ほどの飛来が確認されています。ガンの仲間では唯一海辺で暮らす変わり者で、アオサなどの海藻やアマモなどの海藻を食べます。海面からお尻だけ出して水中の餌をついばむ様子は漁業関係者の方々にとってはきつとごく普通の光景でしょう。

一方でコクガンは国の天然記念物に指定されており、環境省と宮城県のリッドリストでは絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類）に位置づけられている大変貴重な鳥です。穏やかな内湾であることと、餌となる海藻や水草の安定した藻場群落の存在などいくつかの条件が必要で、志津川湾はそれらをクリアする豊かな自然環境が広がっているのです。

志津川湾のラムサール条約湿地への登録では、海藻藻場に加えコクガンの保全も含むことを目指しています。海辺の環境を保全することは、水鳥たちの生活域を守ることにつながります。コクガンは、自然の恵みを未来につなぐ象徴的な存在と言えるのではないのでしょうか。

編集後記

▶今回、相撲大会の取材でお邪魔した林地区には「黒船祭」と呼ばれる伝統的なお祭りがあります。志津川町誌によると、30年に一度だけ行われる牛頭天王を祀るお祭りで、大きな船（山車）の上に笛太鼓を載せ、囃しながら引き回すもので、京都の祇園祭を思わせるものだそうです。

▶そのいわれは、次の説があります。昔、素戔鳴尊（すさのおのみこと）が船で戸倉の青島に着き、神楽を舞っていたのを漁師が見つけた村の人々に告げますが、村人が着いたときにはその姿は無く、神犬一匹が残っていただけだった。村人はその犬を連れ帰り食べ物を与えましたが、ついには死んでしまったので、石碑を建てねんごろに供養すると、供の船が囃子を奏しながら林の鐘石というところに現れたので、鎮守としてお祭りをしました。黒船祭は、その時現れた船と楽曲を再現したものだといわれます。また、地名の林は「囃子」からとったものだと伝わっているそうです。

▶地元の方のお話だと黒船祭は昭和27年を最後にしたそうです。ぜひ、そのお祭りの姿、生で見たいですね。

小野寺

わが家のアイドル



ゆう しん
高橋 優信くん

(◎港)

平成28年3月11日生まれ

パパ 英樹さん

ママ 愛さん

おうちの方より一言

人が好きで、いつもニコニコしています😊優信くんのおかげで、毎日がより楽しくなりました。生まれてきてくれてありがとう！